

人の生活と野生生物との新たな共生促進事業

平成23～26年度（県単：農水商工部執行委任）

福本浩士

近年、三重県においてもニホンジカ（以下、シカ）による農林業被害が増加しており、社会的な問題となっている。とくに、シカによる造林木の剥皮害は剥皮部分から木材腐朽菌が侵入し、材部に変色や腐朽が生じて林業経営に支障をきたす恐れがある。シカによる農林業被害を軽減するためには、シカの個体数管理、生息環境の整備、被害防除が重要であるが、このうち被害防除が早急に取り組むことができる対策である。そこで本研究では、低コストで効果的な剥皮害防止資材を検索することを目的として調査を実施した。

1. ポリエチレンネットによる被害防止効果の検証

2011年9月、三重郡菰野町のヒノキ人工林に設置した剥皮害防止資材（ポリエチレン製ネット、亀甲金網）の30ヶ月後の状況を観察した。その結果、ポリエチレン製ネットは資材の劣化もなく、設置したヒノキに新たな剥皮の発生も認められなかった。一方、亀甲金網は金網がずれ落ちる事例が確認された。

2. 伸縮性ポリエチレンネットによる被害防止効果の検証

2011年9月および10月に三重郡菰野町および津市美杉町のヒノキ人工林に設置した剥皮害防止資材（伸縮性ポリエチレンネット、ポリプロピレンバンド）の6ヶ月後の状況を観察した。その結果、伸縮性ポリエチレンネット、ポリプロピレンバンドともに設置したヒノキに新たな剥皮の発生や資材の劣化は確認されなかった。

3. ポリ乳酸製テープによる根張り部の被害防止の新たな試み

2012年3月、度会郡度会町のスギおよびヒノキ人工林において、根張り部の剥皮を防止することを目的としてポリ乳酸テープを写真-1および2のように設置した。また、対照区として従来の樹幹部のみテープ巻をする処理区とテープ巻をしない無処理区を設定した。今後、定期的に被害調査を実施して被害防止効果を検討する。



写真-1 樹幹部にテープをらせん状に巻き、根張り部に網目状にテープを張った状況



写真-2 根張り部に網目状にテープを張った状況